

わかやま wakayama 新報

SHIMPO

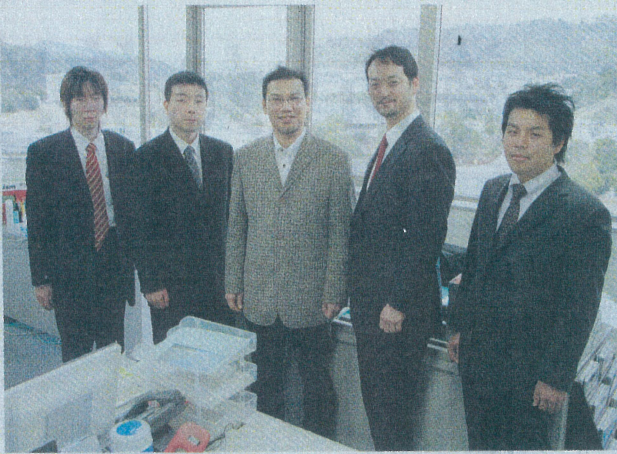
2月14日 土曜日

2009年(平成21年)第18832号
(日曜・祝日・休日翌日休刊)

4月から次世代規格

ネットの基幹技術 サイプレス(南市)が正式対応

県内に展開する和歌山のインターネットサービスプロバイダー・(株)サイプレス(海南市南浜 田添浩二社長)は、インターネット基幹技術の次世代規格、IPv6(インターネットプロトコル・バージョン6)に4月から正式対応する計画を発表した。これは県内プロバイダーとして初の取り組みとなり、全国の地域プロバイダーの中でも正式対応はまれらしい。



県内プロバイダーで初

「地域の産業発展に貢献したい」と意気込む田添社長(中央)とスタッフ

IPv4の4乗43億×43億×43億×43億という天文学的な数にまで増加する。セキュリティが強化されている点やマルチキャスト、モバイルIPにも対応

インターネットに接続するコンピュータにはすべてに個別の番号「IPアドレス」が割り振られ管理されている。現在主流のIPv4は32ビットで、約43億個のIPアドレスで管理されているが、世界的にインターネットの利用が拡大するにつれ近い将来IPアドレスが不足する可能性が明らかになり、次世代のIPv6への移行が急がれている。アドレスが128ビットとなるIPv6では、利用可能なアドレスが1

Pv4の4乗43億×43億×43億×43億という天文学的な数にまで増加する。セキュリティが強化されている点やマルチキャスト、モバイルIPにも対応

した規格であるなどIPv6移行のメリットは大きい。移行料も維持コストが高いことなどから、全国的に地域プロバイダーの対応は遅れているのが現状。IPv4は早ければ2011年からの最新インターネット接続環境を実現す

がいち早くIPv6環境を整備することが必要といわれている。同社では、昨年12月にバックボーンであるIIJへの接続容量を県内最大の1ギガビット/秒(1000メガ)に増速し、準備を進めてきた。IPv6環境で「通信」における社会基盤を率先して整え、地元産業の基盤を押し上げることを、和歌山のIPv6計画という。

同社は昨年8月、関西プロードバンド(MBO)経営陣により和歌山県内最大の1ギガビット/秒(1000メガ)として取り組んできた事業。首都圏に引けをとらない大容量&IP